

### 3.2. 鳥類調査

#### 3.2.1. 調査概要

調査期日・調査項目など調査の概要を表 3.3-1 に示す。

表 3.2-1 調査概要

調査区分	調査期日		調査時間	調査	調査員
陸・海域	冬	2006年1月29～31日	6:30～14:30	鳥類	2名
陸・海域	春	2006年3月2～4日			
陸・海域	夏	2006年6月22,23,26日	4:30～12:30		
海域	秋	2006年8月11日			
陸域		2006年10月10,11日	6:30～14:30		

#### 3.2.2. 調査方法

表 3.2-2 及び図 3.2-1 に示す 10 箇所において、以下に示す調査を実施した。調査方法は概ね「平成 9 年度河川水辺の国勢調査マニュアル河川版(生物調査編)」に従った。

表 3.2-2 調査箇所一覧

区分	地区名	記号	地点名
陸域	元町	M-1	清瀧神社・大蓮寺・宝城院
		M-2	市役所周辺の緑地
		M-3	しおかぜ緑道
	中町	N-1	中央公園
		N-2	若潮公園・交通公園
		N-3	美浜公園・美浜運動公園
	新町	S-1	墓地公園
		S-2	高洲海浜公園
		S-3	明海の丘公園
海域	三番瀬	—	三番瀬



図 3.2-1 調査箇所位置

### 3.2.2.1. 調査箇所における鳥類相調査

調査箇所において設定した定点にとどまり、観察範囲 50m 程度について 60 分間観察し、確認した鳥類の種名を記録した。また、調査箇所全域を対象に任意調査を行い、目視や鳴き声などで確認した種の記録を行った。



図 3.2-2 調査手法(定点調査法と任意調査法)

これらの調査により確認した種のうち、注目すべき種については、その確認状況なども記録することとした。なお、注目すべき種とは、表 3.3-3 の①～④のいずれかに該当する種とした。

表 3.2-3 注目すべき種(鳥類)選定基準

資料名
①文化財保護法(1950, 法律 214)に基づく特別天然記念物及び天然記念物
②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(法律第号)(環境省, 1992)に基づく国際希少野生動植物及び国内希少野生動植物
③鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省, 2006)掲載種
④千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト(2006年改訂版)(動物編)(千葉県, 2006)掲載種

### 3.2.2.2. 市域全域を対象とした鳥類相調査

市域全域を対象に任意踏査を行い、調査箇所以外についての鳥類相の把握に努めた。調査結果は確認した地区ごとにまとめた。

### 3.2.3. 調査結果

#### 3.2.3.1. 鳥類相概況(調査箇所以外を含む)

現地調査の結果、市域全体及び隣接する三番瀬において、12目29科79種の鳥類を確認した。確認種一覧を表3.2-4に示す。このうち54種(全68枚)の写真を撮影した。撮影した写真については、資料編に示した。

表 3.2-4 鳥類確認種一覧(1/2)

No.	目名	科名	和名	冬季	春季	夏季	秋季	生息環境 区分	渡り区分	
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		●			水辺	留鳥	
2			ハジロカイツブリ	●	●			水辺	冬鳥	
3			ミミカイツブリ	●				水辺	冬鳥	
4			カンムリカイツブリ	●	●		●	水辺	冬鳥	
5	ペリカン	ウ	カワウ	●	●	●	●	水辺	留鳥	
6	コウノトリ	サギ	ゴイサギ				●	水辺周辺	留鳥	
7			ダイサギ			●	●	水辺周辺	留鳥	
8			コサギ	●	●		●	水辺周辺	留鳥	
9			アオサギ		●	●	●	水辺周辺	留鳥	
10	カモ	カモ	マガモ	●				水辺	冬鳥	
11			カルガモ	●	●	●		水辺	留鳥	
12			ヨシガモ	●				水辺	冬鳥	
13			オカヨシガモ	●	●			水辺	冬鳥	
14			ヒドリガモ	●	●			水辺	冬鳥	
15			オナガガモ	●	●			水辺	冬鳥	
16			ホシハジロ	●	●			水辺	冬鳥	
17			スズガモ	●	●	●	●	水辺	冬鳥	
18			ホオジロガモ	●	●			水辺	冬鳥	
19			ウミアイサ	●	●			水辺	冬鳥	
20					アヒル(外来種)				●	水辺
21	タカ	タカ	ミサゴ			●	●	水辺周辺	旅鳥	
22			オオタカ	● <sup>*1</sup>	● <sup>*1</sup>			森林	冬鳥	
23			ノスリ	●				森林周辺	冬鳥	
24		ハヤブサ	ハヤブサ				●	その他	冬鳥	
25			チョウゲンボウ	●	●	●		その他	留鳥	
26	キジ	キジ			●	●	森林周辺	留鳥		
27	ツル	クイナ	オオバン	●	●			水辺	冬鳥	
28	チドリ	チドリ	シロチドリ			●		水辺周辺	留鳥	
29		シギ	キョウジョシギ				●	水辺周辺	旅鳥	
30			キアシシギ			●	●	水辺周辺	旅鳥	
31			イソシギ	●	●	●	●	水辺周辺	旅鳥	
32			チュウシャクシギ			●	●	水辺周辺	旅鳥	
33			タシギ					●	水辺周辺	冬鳥
34		カモメ	ユリカモメ	●	●				水辺	冬鳥
35			セグロカモメ	●	●				水辺	冬鳥
36			オオセグロカモメ		●	●	●		水辺	冬鳥
37			カモメ	●	●				水辺	冬鳥
38			ウミネコ	●	●	●	●		水辺	留鳥
39			ズグロカモメ	●	●				水辺	冬鳥
40			ハジロクロハラアジサシ					●	水辺	旅鳥
41			アジサシ					●	水辺	旅鳥
42	コアジサシ					●	●	水辺	夏鳥	

表 3.2-4 鳥類確認種一覧(2/2)

No.	目名	科名	和名	冬季	春季	夏季	秋季	生息環境 区分	渡り区分
43	ハト	ハト	キジバト	●	●	●	●	森林周辺	留鳥
44			ドバト(外来種)	●	●	●	●	人家	留鳥
45	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				●	その他	旅鳥
46			アマツバメ				●	その他	旅鳥
47	キツツキ	キツツキ	アカゲラ				●	森林	旅鳥
48			コゲラ				●	森林	旅鳥
49	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	●	●	●	●	草地	留鳥
50		ツバメ	ツバメ			●	●	人家	夏鳥
51		セキレイ	ハクセキレイ	●	●	●	●	水辺周辺	留鳥
52			セグロセキレイ		●		●	水辺周辺	旅鳥
53			タヒバリ	●	●			水辺周辺	冬鳥
54		ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	森林周辺	留鳥
55		モズ	モズ	●	●		●	森林周辺	冬鳥
56		ツグミ	ジョウビタキ	●	●			森林周辺	冬鳥
57			イソヒヨドリ	●	●		●	水辺周辺	旅鳥
58			トラツグミ	●※2				森林	旅鳥
59			アカハラ	●	●			森林	冬鳥
60			シロハラ		●			森林	冬鳥
61			ツグミ	●	●		●	森林周辺	冬鳥
62			ウグイス	ウグイス	●	●		●	森林
63		オオヨシキリ				●		草地	夏鳥
64	セッカ			●	●	●	草地	留鳥	
65	ヒタキ	オオルリ				●	森林	旅鳥	
66	シジュウカラ	ヒガラ				●	森林	旅鳥	
67		シジュウカラ	●	●	●	●	森林	留鳥	
68	メジロ	メジロ	●	●	●	●	森林	留鳥	
69	ホオジロ	ホオジロ	●	●		●	森林	冬鳥	
70		アオジ	●	●			森林周辺	冬鳥	
71		オオジュリン		●			草地	冬鳥	
72	アトリ	カワラヒワ	●	●	●	●	森林周辺	留鳥	
73		シメ				●	森林周辺	冬鳥	
74	ハタオリドリ	スズメ	●	●	●	●	人家	留鳥	
75	ムクドリ	ムクドリ	●	●	●	●	人家	留鳥	
76	カラス	カケス				●	森林	旅鳥	
77		オナガ	●	●	●	●	森林周辺	留鳥	
78		ハシボソガラス	●	●	●	●	その他	留鳥	
79		ハシブトガラス	●	●	●	●	その他	留鳥	
合計 12 目 29 科 79 種				48 種	50 種	31 種	50 種	—	—

## 【備考】

- ・種の分類は「日本鳥類目録 改訂版第 6 版」(日本鳥学会, 2000)に従った。
- ・※1 は食痕による確認。
- ・※2 は羽による確認。

## 【生息環境区分】

- ・森林: 純森林性種—おもに森林内から林縁に生息する種
- ・森林周辺: 森林周辺性種—森林内から林縁、草地、農耕地周辺に生息する種
- ・草地: 草地性種—おもに草地や農耕地に生息する種
- ・水辺: 水辺性種—おもに水辺やその周辺に生息する種
- ・水辺周辺: 水辺周辺性種—水辺やその周辺、草地、農耕地周辺に生息する種
- ・人家: 人家周辺性種—おもに人家の周辺に生息する種
- ・その他: 生息環境の選択肢の広い種、おもに空中で生活する種

#### 【渡り区分】

- ・留鳥:一定の地域に年間を通じて生息する種
- ・夏鳥:繁殖のために夏季に南方から日本に飛来する種
- ・冬鳥:越冬のために冬季に北方から日本に飛来する種
- ・旅鳥:夏の繁殖地と冬の越冬地の間を渡る過程において、中継地として日本に飛来する種

三番瀬という鳥類の有数の生息地が存在するため、浦安市周辺にはカイツブリ類やカモ類、カモメ類、シギ類、チドリ類といった水鳥の鳥類相が豊かである。一方、陸鳥についても、樹木が植栽された公園には森林性のアカゲラやシジュウカラ、オオルリが、旧江戸川河川敷や市内に点在する草地には、オオヨシキリやヒバリ、オオジュリンなどの草地性の種が確認されている。これらに加え、ミサゴやノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサといった猛禽類も確認されており、人為的に整備され、かつ限られた地域ではあるが、比較的豊かな鳥類相が形成されている。

---

#### 鳥類相の概況

- ・ 三番瀬や旧江戸川で、カモやサギ、カモメの仲間といった水鳥が多く生息しています。
  - ・ 緑の多い公園や街路樹にはシジュウカラ、草地にはオオヨシキリといった陸鳥が生息しています。
  - ・ 季節により、ミサゴやハヤブサといったタカの仲間を見ることができます。
  - ・ 浦安市は人為的に整備された環境が多いですが、比較的多くの鳥たちが生息しています。
-

### 3.2.3.2. 生息環境区別の生息状況

生息を確認した 79 種の鳥類をおもな生息環境別に区分して表 3.2-5 に示す。最も多いのは水辺性種(カイツブリ、カルガモ、ユリカモメなど)の 26 種で、全体の 33%を占めた。これに水辺周辺性種(コサギ、シロチドリ、イソシギ、ハクセキレイなど)の 15 種(19%)を加えると、41 種(52%)となり、水鳥と呼ばれる種が全体の過半数を占めることになる。一方、陸鳥は森林周辺性種(ヒヨドリ、ウグイス、ホオジロなど)が 13 種(17%)で最も多く、これに純森林性種(アカゲラ、オオルリ、カケスなど)が 11 種(14%)、生息環境の選択枝の広い種(チョウゲンボウ、ヒメアマツバメ、ハシブトガラスなど)が6種(8%)、草地性種(ヒバリ、オオヨシキリ、オオジュリンなど)、人家周辺性種(ツバメ、スズメ、ムクドリなど)がそれぞれ4種(5%)と続いている。

これらの結果は、浦安市が水辺環境に恵まれていることを反映したものとなったが、陸域環境についても、公園や街路樹などの限られた環境に、比較的多様な鳥類相が形成されているといえる。

表 3.2-5 生息環境別の生息状況(鳥類)

生息環境区分	おもな確認種	種数 (構成比)
純森林性種 (森林～林縁部)	オオタカ、アカゲラ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、オオルリ、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、カケス	11 種 13.9%
森林周辺性種 (森林内～林縁部～草地～農耕地)	ノスリ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ジョウビタキ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワ、シメ、オナガ	13 種 16.5%
草地性種 (草地～荒地～農耕地)	ヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、オオジュリン	4 種 5.1%
水辺性種 (水辺～水辺周辺)	カイツブリ、カワウ、カルガモ、スズガモ、ホシハジロ、ウミアイサ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、コアジサシ	26 種 32.9%
水辺周辺性種 (水辺周辺～草地～荒地～農耕地)	アオサギ、コサギ、ミサゴ、シロチドリ、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、ハクセキレイ、タヒバリ、イソヒヨドリ	15 種 19.0%
人家周辺性種 (人家周辺～農耕地)	ドバト、ツバメ、スズメ、ムクドリ	4 種 5.1%
生息環境の選択枝の広い種 おもに空中で生活する種	ハヤブサ、チョウゲンボウ、ヒメアマツバメ、アマツバメ、ハシブトガラス、ハシブトガラス	6 種 7.6%

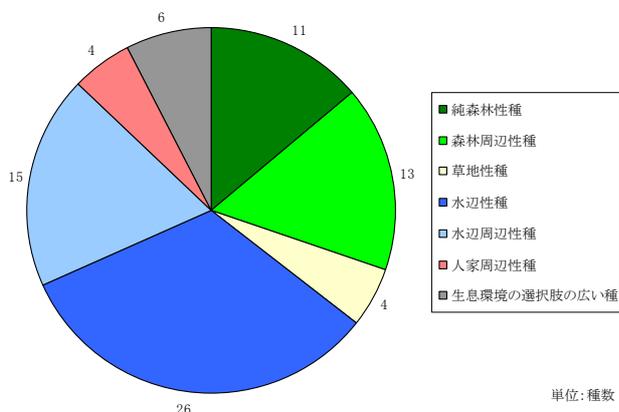


図 3.2-3 生息環境別の生息状況(鳥類)

---

### 環境区別の生息状況（鳥類）

- ・ カモやサギ、カモメ、シギ・チドリの仲間といった水辺に生息する種が、最も多く生息しています。
  - ・ アカゲラやオオルリ、カケスといった森林に生息する種が生息しています。
  - ・ ヒバリやオオヨシキリ、セッカといった草地に生息する種が生息しています。
  - ・ 浦安市及び隣接する三番瀬を含むさまざまな環境で、比較的多くの鳥たちが生息しています。
-

### 3.2.3.3. 渡り区分別の生息状況

生息を確認した 79 種を渡り区分別に整理したものを表 3.2-6 に示す。最も多いのはカンムリカイツブリやスズガモ、ユリカモメ、ツグミ、アオジなど冬鳥の 34 種(全体の 43%)であり、次いでカワウやダイサギ、カルガモ、オナガなど留鳥の 26 種(33%)、キョウジョシギやアマツバメ、オオルリなど旅鳥の 16 種(20.3%)、コアジサシやツバメ、オオヨシキリといった夏鳥 3 種(3.8%)であった。

冬鳥及び留鳥が多いため、浦安市の鳥類相は夏季より冬季に豊かになる。また、春秋についても、キアシシギなどのシギ類が三番瀬に、アカゲラやオオルリなどの森林性の種が公園や街路樹などの限られた環境にそれぞれ旅鳥として訪れるため、それぞれの滞在する期間は短いものの、比較的多様な鳥類相が形成されている。

表 3.2-6 渡り区分別の生息状況

渡り区分	おもな確認種	種数 (構成比)
留鳥 (一定の地域に年間を通じて生息する種)	カワウ、ダイサギ、カルガモ、チョウゲンボウ、シロチドリ、ウミネコ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、オナガ、ハシブトガラス	26 種 32.9%
夏鳥 (繁殖のために渡来する種)	コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ	3 種 3.8%
冬鳥 (越冬のために渡来する種)	カンムリカイツブリ、マガモ、スズガモ、ミサゴ、オオタカ、ハヤブサ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、タヒバリ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、アオジ、シメ	34 種 43.0%
旅鳥 (繁殖や越冬のために中継地として通過する種)	キョウジョシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、アジサシ、アマツバメ、アカゲラ、トラツグミ、オオルリ、ヒガラ、カケス	16 種 20.3%

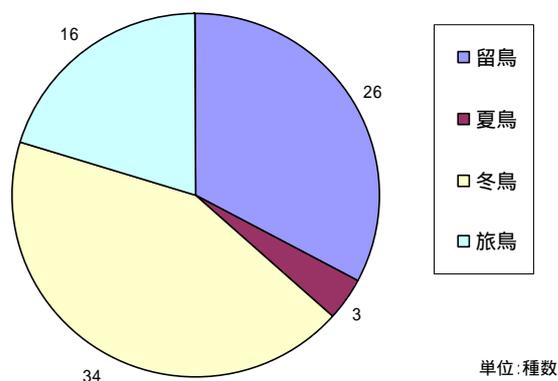


図 3.2-4 渡り区分別の生息環境

---

### 渡り区別の生息状況（鳥類）

- ・ スズカモやユリカモメ、ツグミといった冬鳥が、最も多く生息しています。
  - ・ カワウやカルガモ、キジバトといった留鳥が、冬鳥に次いで多く生息しています。
  - ・ キアシシギやアマツバメ、カケスといった旅鳥も比較的多く生息しています。
  - ・ コアジサシやツバメといった夏鳥は、最も少ないです。
  - ・ 浦安市及び隣接する三番瀬には、季節によりさまざまな鳥たちが生息していますが、冬に最も多くの鳥たちが生息しています。
-

### 3.2.3.4. 注目すべき種の生息状況

注目すべき種として表 3.2-7 に示す 41 種を確認した。種の保存法における希少野生動植物に該当するものが3種、環境省のレッドリスト掲載種が5種、千葉県レッドリスト掲載種が41種である。文化財保護法に基づく特別天然記念物及び天然記念物に該当するものは確認していない。確認状況を表 3.2-8 に、確認位置を図 3.2-5(1)～(5)に示す。

表 3.2-7 注目すべき種一覧

No.	目名	科名	和名	選定基準				
				天然記念物	種の保存法	環境省	千葉県	
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ				C	
2			カンムリカイツブリ				D	
3	ペリカン	ウ	カワウ				D	
4	コウノトリ	サギ	ダイサギ				C	
5			コサギ				C	
6			アオサギ				D	
7	カモ	カモ	ヨシガモ				B	
8			オカヨシガモ				C	
9			スズガモ				D	
10			ホオジロガモ				B	
11			ウミアイサ				D	
12	タカ	タカ	ミサゴ			NT	B	
13			オオタカ		国内	NT	B	
14			ノスリ				C	
15		ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	B	
16			チョウゲンボウ				C	
17	ツル	クイナ	オオバン				C	
18	チドリ	チドリ	シロチドリ				B	
19			シギ	キョウジョシギ				C
20		キアシシギ					C	
21		イソシギ					B	
22		チュウシャクシギ					D	
23		カモメ		ズグロカモメ			VU	A
24				アジサシ				C
25				コアジサシ		国際	VU	A
26		アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				C
27				アマツバメ				A
28	キツツキ	キツツキ	アカゲラ				C	
29	スズメ	ヒバリ	ヒバリ				D	
30			ツバメ	ツバメ				D
31		セキレイ	セグロセキレイ				D	
32			ツグミ	イソヒヨドリ				C
33		トラツグミ					D	
34		ウグイス		ウグイス				D
35				オオヨシキリ				D
36				セッカ				D
37		ヒタキ		オオルリ				B
38		メジロ		メジロ				C
39		ホオジロ		ホオジロ				C
40				オオジュリン				D
41			カラス	カケス				C
合計 12 目 29 科 79 種				0 種	3 種	5 種	41 種	

**【備考】**

・種の分類は「日本鳥類目録 改訂版第 6 版」(日本鳥学会, 2000)に従った。

**【選定基準】**

- ・天然記念物:文化財保護法(1950, 法律 214)に指定されている種。
- ・種の保存法:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(法律第 75 号)(環境省, 1992)で希少野生動植物に指定されている種。  
国内:国内希少野生動植物
- ・環境省:鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについてレッドリストの見直しについて(環境省, 2006)に掲載されている種。  
VU:絶滅危惧 II 類。絶滅の危機が増大している種。  
NT:準絶滅危惧。現時点では絶滅の危険性は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。
- ・千葉県:千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデリスト(2006 年 改訂版)(動物編)(千葉県, 2006)に掲載されている種
  - A:最重要保護生物。個体数が極めて少ない、生育環境が極めて限られている、生育地のほとんどが環境変化の危機にある、などの状況にある種。
  - B:重要保護生物。個体数がかなり少ない、生育環境がかなり限られている、生育地のほとんどで環境変化の可能性があり、などの状況にある種。
  - C:葉保護生物。個体数が少ない、生育環境が限られている、生育地の多くで環境変化の可能性があり、などの状況にある種。
  - D:一般保護生物。個体数が少ない、生育環境が限られている、生育地の多くで環境変化の可能性があり、などの状況にある種。

---

**注目すべき種の生息状況(鳥類)**

- ・ 個体数が少ないなどの理由により、保護することが望まれる種として、41 種が確認されました。
  - ・ 浦安市及び隣接する三番瀬で見られる鳥類の種類の上半分以上が、保護が望まれる種です。
  - ・ 浦安市及び隣接する三番瀬が、注目すべき鳥たちの重要な生息環境であることがわかります。
-

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(1/14)

カイツブリ	
	ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物) 確認時期:春季 確認位置:境川 高洲橋 撮影日:2006年3月4日
春季に境川の高洲橋上流部で2羽を確認した。 本種はほぼ全国的に分布し、北海道から九州までの各地で繁殖する。北海道と本州北部では夏鳥、本州中部以南では留鳥である。おもに平野部の池、湖沼、堀、河川に生息し、秋・冬には河川下流域でもみられる。魚類、水生の甲殻類、昆虫、軟体動物を捕食する。ヨシ原のなかや水中に繁茂する水草上に水草の葉や茎を用いて、浮巢を造る。 千葉県では各地の水辺に広く分布する。	
カンムリカイツブリ	
	ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物) 確認時期:冬季、春季、秋季 確認位置:三番瀬 撮影日:2006年1月30日
冬季に51羽、春季に4羽、秋季に1羽を三番瀬で確認した。 本種はおもに冬鳥として渡来する大型のカイツブリである。海岸や海岸付近の湖沼、大きな河川に生息し、魚類を主要な餌としている。水草の密生した水辺の浅瀬に浮き巢を造って繁殖を行うが、国内では青森県から繁殖個体群を確認されているのみである。 千葉県では東京湾奥部に多く、習志野市茜浜から三番瀬、葛西臨海公園沖にかけての地域では、1992年以降、2,000~4,000羽の大群が越冬する。太平洋岸では夷隅川河口や銚子など、内陸の水域では山倉ダムや印旛沼、手賀沼などに少数の個体が渡来する。	
カワウ	
	ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物) 確認時期:冬季、春季、夏季、秋季 確認位置:三番瀬、高洲海浜公園、旧江戸川、境川 以下上空通過 M-1(清瀧神社・大蓮寺・宝城院)、M-2(忠霊塔公園)、 M-3(しおかぜ緑道)、N-2(若潮公園・交通公園)、 N-3(美浜公園・美浜運動公園)、S-1(墓地公園)、 S-2(高洲海浜公園)、S-3(明海の丘公園)、 元町・中町・新町市街地 撮影日:(上)2006年10月10日、(下)2006年3月3日
年間を通して市内の水域や市街地上空で確認した。冬季には最大139羽を三番瀬で確認した。 本種は留鳥として中部地方と関東地方を中心に本州と九州の十数カ所で繁殖の記録がある。(青森県では夏鳥)。内陸の河川、湖沼に生息し、その周辺の林で枝上に枯れ草や小枝を用いた皿形の巣を作り、集団で繁殖を行う。 千葉県では市川市の行徳鳥獣保護区と小櫃川河口で繁殖する。三番瀬などの東京湾の浅瀬は重要な餌場であり、数千羽が採餌環境として利用している。	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(2/14)

ダイサギ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                      確認時期:夏季、秋季                      確認位置:三番瀬、旧江戸川                      撮影日:2006年10月11日</p>
<p>三番瀬で夏季に1羽、秋季に2~9羽、旧江戸川で1羽を確認した。                      本種は関東から九州までの各地で繁殖する。シラサギ類のなかでは、分布地が最も狭く、冬は大部分が南に移動する。開けた河川や湖沼、干潟などで生活する。浅い水中をゆっくり歩きながら、おもに魚類を捕食するが、両生類や甲殻類なども捕食する。                      千葉県では海岸から内陸に至るまで、県内のほぼ全域に生息するが、個体数は減少傾向にある。小櫃川河口や干潟、印旛沼などの湖沼や河川で見られる。</p>	
コサギ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                      確認時期:冬季、春季、秋季                      確認位置:三番瀬、旧江戸川、境川排水場                      撮影日:2006年10月10日</p>
<p>冬季に三番瀬、旧江戸川でそれぞれ1羽、春季に旧江戸川で1羽、境川排水場付近で4羽、秋季に三番瀬で1~2羽、旧江戸川で2羽、境川排水場付近で1羽を確認した。                      本種は低地、山地の水田、湖沼、河川、海岸の干潟などの水辺に生息し、マツ林や雑木林などの樹上に他のサギ類に混生して集団繁殖することが多い。浅瀬や泥の中を歩き回りドジョウ、カエル、ザリガニなどを捕食する。わが国ではおもに夏鳥であるが、留鳥や漂鳥の個体もあり、本州から九州までの各地で生息または繁殖する。                      千葉県に生息するサギ類のなかでは最も広く分布する。集団繁殖コロニーは、野田市、我孫子市、成田市、市川市、八街市、野栄町、旭市、銚子市、市原市、木更津市、夷隅町、館山市で確認されている。県内の個体数は著しく減少している。</p>	
アオサギ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                      確認時期:春季、夏季、秋季                      確認位置:M-2(市役所周辺)、三番瀬、中町市街地                      写真提供:(株)環境指標生物</p>
<p>春季に市役所周辺上空を飛翔する2羽、夏季に三番瀬で1羽、中町市街地の上空を飛翔する1羽、秋季に三番瀬で1羽を確認した。                      本種は留鳥として分布し、湖沼、河川、水田、干潟などの水辺に生息する。高木の針葉樹などの樹上に営巣し、同種だけで集団繁殖することが多い。昆虫、両生類、甲殻類、小型哺乳類(ネズミなど)を捕食する。                      千葉県では県内の全域に分布するが、個体数は少なく繁殖記録もない。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種（鳥類）確認状況（3/14）

<p>ヨシガモ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→B(重要保護生物)                      確認時期:冬季                      確認位置:境川排水場                      撮影日:2006年1月29日                      備考:写真(オス)</p>
<p>冬季に境川排水場付近で1羽を確認した。                      本種は冬鳥として、本州、四国、九州に渡来し、湖沼、ダム湖、河川、沼沢地、潟湖、干潟、水田などでみられる。非繁殖期は群れで生活し、夜間に水田や湿地において、おもにイネ科、タデ科などの種子、マコモや水草の葉・茎・根などを採食する。                      千葉県では冬季にみられるが、渡来地は限られている。かつては、東京湾岸の干潟や浅瀬で数百から数千羽の群れが記録されていた。1970年代までは小櫃川河口から富津にかけての浅瀬でも多くの個体が見られたが、近年は減少した。狩猟鳥であり、毎年数百羽が県内で捕獲されている。</p>	
<p>オカヨシガモ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                      確認時期:冬季、春季                      確認位置:旧江戸川、境川排水場・高洲橋                      撮影日:2006年3月3日                      備考:写真(左オス、右メス)</p>
<p>冬季に旧江戸川で1羽、境川の排水場付近で2羽、春季に旧江戸川で5羽、境川の高洲橋上流で1羽を確認した。                      本種は冬鳥として本州、九州に渡来し、湖沼、沼沢地、池、潟湖、水田、湿地などでみられる。非繁殖期は30羽程度の群で生活する。」夜間に水田や湿地において、おもにイネ科、カヤツリグサ科、タデ科などの種子、ヒルムシロなどの水草の葉・茎・根などを採食する。                      千葉県では多くの地域では冬鳥であるが、局地的に繁殖する。1987年に千葉市幕張埋立地で初めて繁殖が確認され、1988年に新浜水鳥保護区、1996年に習志野市谷津干潟でも繁殖が記録された。越冬期には東京湾岸や印旛沼などの池沼でもみられる。</p>	
<p>スズガモ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                      確認時期:冬季、春季、夏季、秋季                      確認位置:S-2(高洲海浜公園)、三番瀬                      撮影日:2006年1月30日                      備考:写真(左メス、右オス)</p>
<p>年間を通して三番瀬、冬季に高洲海浜公園で確認した。三番瀬では冬季に4,000羽、春季に2,566羽、夏季に8羽、秋季に5羽を確認した。高洲海浜公園では冬季に76羽を確認した。                      本種は冬鳥として全国に渡来し、大きい湖沼、河川、内湾、干潟などに生息する。とくに沿岸の海や大きい内湾、河口部に多く、数百から数千羽の大群がみられる。雑食性だが、水底の巻貝類や二枚貝などの動物食が多い。                      千葉県では東京湾に毎年、冬鳥として数万羽が飛来する。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(4/14)

<p>ホオジロガモ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→B(重要保護生物)            確認時期:冬季、春季            確認位置:三番瀬、旧江戸川            撮影日:2006年3月2日            備考:写真(メス)</p>
<p>冬季に三番瀬で34羽、春季に三番瀬で20羽、旧江戸川で1羽を確認した。            本種は冬鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来し、本州北部と北海道に多い。越冬地では大きな河川、湖沼、池、河口、砂浜海岸で見られるが、砂浜海岸の波があるところにとくに多い。軟体動物、甲殻類、昆虫の幼虫、小魚などを潜水や水面から逆立ちをして捕らえるほか、水草の種子、葉、茎、根、水藻なども採食する。            千葉県では冬鳥として局地的に分布する。新浜沖(三番瀬の市川市寄り)で比較的まとまった群がみられるが、そのほかの地域での越冬数は少ない。三番瀬では貝類や甲殻類を採食しており、浅海域に強く依存した種と考えられている。</p>	
<p>ウミアイサ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)            確認時期:冬季、春季            確認位置:三番瀬            撮影日:2006年3月2日            備考:写真(オス)</p>
<p>冬季に三番瀬で6羽、春季に11羽を確認した。            本種は冬鳥として、全国的に渡来するが、南西諸島では少ない。周年群れで生活し、比較的浅い岩礁にいることが多い。砂浜、河口部、干潟の水路、潟湖に入ることもあるが、淡水湖では稀である。朝夕に活発に活動し、水中に3~7mくらい潜水しておもに魚を捕食する。群で一列に並んでいっせいに潜る共同採食をすることもある。            千葉県では冬季、沿岸に渡来する。東京湾では特に三番瀬周辺の浅海域に多い。</p>	
<p>ミサゴ</p> 	<p>ランク:「環境省 RL」→NT(準絶滅危惧)            「千葉県 RL」→B(重要保護生物)            確認時期:夏季、秋季            確認位置:三番瀬            撮影日:2006年8月11日</p>
<p>夏季、秋季に三番瀬で1羽を確認した。            本種は海岸、湖沼、河口などに生息し、海岸の岩棚や水辺に近い大木に営巣する。上空から水中に急降下して魚類を捕食し、常食とする。日本では北海道から沖縄で繁殖する留鳥だが、冬に海が凍結する地域からは暖地へ移動する。            千葉県では海岸部を中心に記録があるが個体数は少なく、繁殖は確認されていない。東京湾では数少ない旅鳥か冬鳥である。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(5/14)

<p>オオタカ</p> 	<p>ランク:「種の保存法」→国内希少野生動植物 「環境省 RL」→NT(準絶滅危惧) 「千葉県 RL」→B(重要保護生物) 確認時期:冬季、春季 確認位置:S-1(墓地公園)、日の出北公園付近 写真提供:(株)環境指標生物</p>
<p>個体の確認はないが、冬季に日の出北公園付近、春季に墓地公園で本種が捕食したと推測される食痕を確認した。捕食された種はいずれもドバトであった。 本種は四国の一部及び本州、北海道の広い範囲で繁殖するが、繁殖記録は東日本で多く、西日本では少ない。留鳥として周年生息するが、秋から冬になると高地や山地の個体の一部は低地や暖地に移動する。平地から亜高山帯の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息し、しばしば獲物を求めて農耕地、牧草地、水辺など開けた場所にも飛来する。中・大型の鳥やネズミなどを捕食する。千葉県では近年、広範囲にわたり繁殖が確認されており、越冬期には全国で確認例が増加している。</p>	
<p>ノスリ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物) 確認時期:冬季 確認位置:S-1(墓地公園) 写真提供:(株)環境指標生物</p>
<p>冬季に墓地公園で1羽を確認した。 本種は平地から山地の林に生息し、おもに樹上に営巣するが岸壁の岩棚に営巣した例もある。営巣地付近の草原、河原、農耕地などでネズミなどの小型哺乳類、カエル、ヘビなどを捕食する。わが国では北海道から四国で繁殖し、越冬期には全国に分散する。 千葉県では冬鳥として各地に渡来し、耕作地や河川敷などでもみられる。南部の山地における繁殖の可能性も指摘されている。トビに次いで普通にみられるタカ類であったが、開発や耕作地の宅地開発・市街化により、越冬場所は減少している。</p>	
<p>ハヤブサ</p> 	<p>ランク:「種の保存法」→国内希少野生動植物 「環境省 RL」→VU(絶滅危惧Ⅱ類) 「千葉県 RL」→B(重要保護生物) 確認時期:秋季 確認位置:S-2(高洲海浜公園) 写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>秋季に高洲海浜公園の海上上空を飛翔する1羽を確認した。 本種は、広い空間で狩りをするために、海岸や河川敷、干拓地などを生活圏とし、海岸付近の断崖の岩棚に営巣することが多い。おもにヒヨドリ大の中型鳥類を単独あるいはつがいによる共同狩猟で捕獲することが知られている。わが国では北海道から九州北西部の島嶼に至るまで広く分布し、多くは留鳥であるが、冬の気象条件の厳しい地域のは、暖地の海岸や平野部に移動する。 千葉県では夏季の記録もあるが、繁殖記録はない。水鳥類の多い河口や干潟などの湿地で観察されることが多い。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(6/14)

<p>チョウゲンボウ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                      確認時期:冬季、春季、夏季                      確認位置:N-2(若潮公園・交通公園)、S-3(明海の丘公園)、                      新町市街地                      撮影日:2006年1月29日</p>
<p>冬季に若潮公園・交通公園、明海の丘公園、新町市街地、春季に新町市街地、夏季に明海の丘公園で1羽を確認した。                      本種は本州の山地や丘陵帯の崖地で局地的に繁殖し、冬は全国の平野部で越冬する。一般には川沿いの垂直な崖地の岩棚に営巣し、小鳥類やトカゲ、カエル、昆虫類などを捕食する。                      千葉県では一部で繁殖し、越冬期には全県で見られる。近年、我孫子市、松戸市、取手市の河川敷や千葉市などの東京湾岸で人工建造物を利用して繁殖するようになった。</p>	
<p>オオバン</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                      確認時期:冬季、春季                      確認位置:S-2(高洲海浜公園)、三番瀬、旧江戸川、                      境川排水場・高洲橋                      撮影日:2006年1月30日</p>
<p>冬季に高洲海浜公園で10羽、三番瀬で210羽、旧江戸川、境川の高洲橋付近で1羽、境川の排水場付近で3羽、春季に高洲海浜公園で42羽、三番瀬で347羽、境川排水場で1羽を確認した。                      本種は本州中部以北、北海道で繁殖し、冬は全国の湖沼、河川、水田などのヨシやガマが生育する湿地に生息する。水面や水中に潜水して水草の葉や茎、種子などのほか、水辺の昆虫や貝、甲殻類などを捕食する。                      千葉県では手賀沼・印旛沼・東京湾岸などで局地的に繁殖する。越冬期には各地で見られる。1960年代まで新浜(市川市・浦安市)にあった丸浜養魚場は、国内の繁殖南限として有名であったが、埋め立てにより消滅した。</p>	
<p>シロチドリ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→A(最重要保護生物)                      確認時期:夏季                      確認位置:三番瀬                      撮影日:2006年6月26日</p>
<p>夏季に三番瀬で1羽を確認した。                      本種は、夏鳥として本州以南に渡来して繁殖する。本州西南部以南で、少数が越冬する。海岸の砂浜、河口の干潟、大きい河川の広々とした砂州などで繁殖し、渡り期や越冬期では海岸や河口の干潟、潟湖、湖沼、溜池、河川などの砂泥地でみられる。昆虫類、クモ類、甲殻類、ミズやゴカイ類、小型の貝類などを餌とする。巣は、砂地の漂流物の間や疎らな草の間などの浅い窪みにつくる。                      千葉県では市川から富津、銚子、九十九里の県北の砂浜海岸におもに分布し、白子や千倉などでも確認されている。千葉市の美浜区と中央区の埋立地では、大きな営巣地が存続している。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(7/14)

キョウジョシギ	
写真なし	ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物) 確認時期:秋季 確認位置:三番瀬
秋季に三番瀬で3~4羽を確認した。 本種は旅鳥として全国の海岸に渡来する。海岸では砂浜や河口の砂泥地にも現れるが、岩石地や砂利地の海岸を最も好む。まれに内陸の河川にも現れる。水辺を活発に動き、湿った地表面からついばむ。繁殖期は昆虫などを捕食するが、渡りの中継地であるわが国ではヨコエビ類やカニ類、貝類、トビムシ類などを捕食する。 千葉県では、東京湾に旅鳥として春と秋の渡りの季節に普通に渡来する。	
キアシシギ	
	ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物) 確認時期:夏季、秋季 確認位置:三番瀬 撮影日:2006年8月11日
夏季に三番瀬で3羽、秋季に1~14羽を確認した。 本種は旅鳥として全国の海岸や干潟、サンゴ礁、河川の砂泥地や砂礫地に渡来する。春の渡りの時期には内陸の河原にも現れる。地表や水面から水生昆虫やミズ、ゴカイやカニ類などを捕食する 千葉県では、東京湾に旅鳥として普通に渡来する。	
イソシギ	
	ランク:「千葉県 RL」→B(重要保護生物) 確認時期:冬季、春季、夏季、秋季 確認位置:S-2(高洲海浜公園)、三番瀬、旧江戸川、境川排水場付近、新町市街地 撮影日:2006年1月30日
冬季に高洲海浜公園、春季に三番瀬、旧江戸川、夏季に高洲海浜公園、旧江戸川、秋季に三番瀬で2羽、旧江戸川、境川の排水場付近、新町市街地で1羽を確認した。 本種は河川、湖沼などの水辺に生息し、水田や畑地などにも現れる。おもに河川中流域の砂礫の河原で繁殖し砂地に営巣する。水辺で昆虫(おもに水生昆虫)を捕食する。北海道、本州、四国、九州などに夏鳥として渡来し繁殖する。また、北方で繁殖する個体は冬季に本州中部以南に移動する。 千葉県では周年みられ、幼鳥も観察されているが、確実な繁殖記録はない。県内には、広い河原がある大きな河川が少ないため、繁殖地は限られている。渡りの時期の7、8月には個体数は多いが、越冬期の個体数は少ない。河川改修、河川敷や海岸への人や車の立ち入り増加などの人為的影響により、生息地が減少している。	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(8/14)

チュウシヤクシギ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                      確認時期:夏季、秋季                      確認位置:三番瀬                      撮影日:2006年6月26日</p>
<p>夏季に三番瀬で1羽、秋季に4羽を確認した。                      本種は旅鳥として各地の海岸の干潟、砂浜の水たまり、河川の砂泥地、水田などに渡来する。泥の中のカニやカエル、水生昆虫などを捕食する。                      千葉県では、東京湾に旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。</p>	
ズグロカモメ	
	<p>ランク:「環境省 RL」→VU(絶滅危惧Ⅱ類)                      「千葉県 RL」→A(最重要保護生物)                      確認時期:冬季、春季                      確認位置:三番瀬                      写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>冬季、春季に三番瀬で2羽を確認した。                      本種は北海道から沖縄県までの沿岸各地に冬鳥として少数が渡来する。九州の博多湾や有明海、沖縄県には比較的よく渡来し毎年みられるが、他地域では少ないか極めて稀である。内湾や入り江の干潟の上空を低く飛びながら餌を探し、急降下してスナガニ類やゴカイ類、トビハゼなどを捕食する。                      千葉県では極めて稀な冬鳥である。三番瀬、谷津干潟、小櫃川河口などの干潟で越冬期の記録があり、谷津干潟では少数の個体が定期的に越冬する。</p>	
アジサシ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                      確認時期:秋季                      確認位置:三番瀬                      写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>秋季に三番瀬で2~13羽を確認した。                      本種は旅鳥として各地の海岸の河口、干潟、大きい湖沼、大きい河川などに渡来する。水面に飛び込み魚や甲殻類を捕食する。                      千葉県では渡りの季節にみられ、外房沖を多数が通過し、また、東京湾にも多数が渡来する。特に三番瀬では、数千羽から数万羽の大きな群れがみられる。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(9/14)

<p>コアジサシ</p> 	<p>ランク:「種の保存法」→国際希少野生動植物 「環境省 RL」→VU(絶滅危惧Ⅱ類) 「千葉県 RL」→A(最重要保護生物) 確認時期:夏季、秋季 確認位置:S-1(墓地公園)、三番瀬 撮影日:2006年8月11日</p>
<p>夏季に墓地公園上空を飛翔する1羽、三番瀬で10羽、秋季に三番瀬で4~148羽を確認した。 本種は、夏鳥として日本に渡来する小型のアジサシであり、本州以南の各地で繁殖している。湖沼や河川、河口などの大きな水域に接した河原、砂州、砂浜に生息し、体長10cm以下の小魚を捕食する。年間を通じて群で生活し、繁殖期にもコロニーを形成して集団繁殖するものが多い。小島や中州などの砂地に浅いくぼみを掘って営巣するが、近年はそのような環境が次々と消失し、繁殖地も局所的になっている。千葉県では局地的に分布し、東京湾岸では浦安市から木更津市にかけて分布する。おもな繁殖地は東京湾岸の埋立地、特に千葉市美浜区と中央区であるが、他地域にも繁殖記録がある。</p>	
<p>ヒメアマツバメ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物) 確認時期:秋季 確認位置:S-2(高洲海浜公園) 写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>秋季に高洲海浜公園付近の海上上空を飛翔する13羽を確認した。 本種は、平野部の市街地から低山に生息し、鉄筋コンクリートの建造物やツバメ類の古巣に営巣し、コロニーを形成する。上空で飛翔性の昆虫を捕食するほか、巣材集め、交尾、睡眠も空中で行うという。日本には生息していなかったが1964年頃から観察されるようになり、現在は茨城県以西の太平洋沿岸を中心に分布を拡大し、局地的に繁殖している。今後もさらに分布域を拡大する傾向にある。 千葉県では内房から外房にかけての漁港などで局地的に繁殖する。</p>	
<p>アマツバメ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→A(最重要保護生物) 確認時期:秋季 確認位置:S-2(高洲海浜公園) 画像出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>秋季に高洲海浜公園付近の海上上空を飛翔する2羽を確認した。 本種は北海道から沖縄県までの沿岸各地に冬鳥として少数が渡来する。九州の博多湾や有明海、沖縄県には比較的よく渡来し毎年みられるが、他地域では少ないか極めて稀である。内湾や入り江の干潟の上を低く飛びながら餌を探し、急降下してスナガニ類やゴカイ類、トビハゼなどを捕食する。 千葉県では極めて稀な冬鳥である。三番瀬や谷津干潟、小櫃川河口などの干潟で越冬期の記録があり、谷津干潟では少数の個体が定期的に越冬する。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(10/14)

<p>アカゲラ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)          確認時期:秋季          確認位置:S-1(墓地公園)          画像出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>秋季に墓地公園で1羽を確認した。          本種は北海道から本州まで分布するが、西日本では少なく、中部地方以北に多い。ほとんどが留鳥である。低地、低山帯～亜高山帯のさまざまな樹林に生息し、落葉広葉樹林やアカマツ林などの比較的明るい林を好む。枯死材の中の幼虫やアリなどを捕食する。          千葉県では冬鳥で、渡りの時期から越冬期にかけてみられるが、個体数は少ない。</p>	
<p>ヒバリ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)          確認時期:冬季、春季、夏季、秋季          確認位置:S-1(墓地公園)、S-2(高洲海浜公園)、三番瀬、          新町市街地          撮影日:2006年3月4日</p>
<p>冬季に墓地公園で9羽、高洲海浜公園で6～7羽、新町市街地で1羽、春季に墓地公園で1～4羽、高洲海浜公園で6～10羽、新町市街地で4羽、夏季に墓地公園で1～3羽、高洲海浜公園で2羽、新町市街地で3羽、秋季に墓地公園で1～4羽、高洲海浜公園で1羽、三番瀬で1羽、新町市街地で8羽を確認した。          本種は全国的に分布、繁殖する。牧場や草原、河原、農耕地などに生息し、草丈が低く植被率の低い乾燥地を好む。地上で草の実や昆虫を採食する。          千葉県では留鳥として各地に広く分布する。市街化により草地が減少していることなどから、東京湾岸の都市部や葛南地域では個体数の減少が著しい。河川敷や海岸では人や車の立ち入りや護岸整備などの人為的影響を受け、繁殖場所が減少している。</p>	
<p>ツバメ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)          確認時期:夏季、秋季          確認位置:M-1(清瀧神社・大蓮寺・宝城院)、N-1(中央公園)、          N-2(若潮公園・交通公園)、N-3(美浜公園・美浜運動公園)、S-1(墓地公園)、S-2(高洲海浜公園)、          S-3(明海の丘公園)、三番瀬、旧江戸川、境川、          新町市街地          撮影日:2006年6月22日</p>
<p>夏季、秋季に市内の広範囲にわたり数羽を確認した。          本種は、山間の村落、市街などに多く、人家または建築物の軒下に営巣し、田畑や草原、海岸、河川など、営巣地付近のあらゆる環境において、飛翔しながら昆虫を捕食する。日本では種子島以北の全土に夏鳥として渡来し、繁殖する。茨城県の霞ヶ浦や九州各地では越冬個体群が知られている。          千葉県では全域で繁殖する。印旛沼では越冬する個体があったが、近年は記録されていない。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(11/14)

セグロセキレイ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                  確認時期:春季、秋季                  確認位置:M-2(市役所周辺)                  境川 高洲橋・今川橋、新町市街地                  写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>春季に境川の高洲橋、新町市街地、秋季に市役所周辺、境川の今川橋で1羽を確認した。                  本種は全国各地の河川周辺に留鳥として生息する日本固有種である。川の土手の窪みや河原の石など                  の下で繁殖し、おもに昆虫を捕食する。                  千葉県では利根川や江戸川流域、南部の水田地域で繁殖する。近年、生息地が減少している。</p>	
インビヨドリ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)                  確認時期:冬季、春季、秋季                  確認位置:境川排水場・高洲橋                  撮影日:2006年1月29日</p>
<p>冬季に境川排水場、春季、秋季に境川高洲橋で1羽を確認した。                  本種は崖や岩場がある海岸に生息する。餌は多様で、海岸に生息する昆虫やフナムシ、海岸沿いの林に                  生息するムカデ、トカゲなどを捕食する。わが国では暖地に移動する北海道東部の個体以外は留鳥として                  分布する。                  千葉県では全域の海岸に分布する。勝浦市、鴨川市などの岩礁海岸では普通にみられる。稀に内陸部                  でも目撃され、船橋市の海岸部の工場地帯などでも確認例がある。</p>	
トラツグミ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                  確認時期:春季                  確認位置:S-1(墓地公園)                  写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>冬季に墓地公園で風切羽を1枚確認した。                  本種は全国的に分布し、積雪の多い地域の個体は冬季に暖地に移動する。丘陵から低山帯の山地の暗                  い広葉樹林や針広混交林などで繁殖する。昆虫やミズを捕食、植物の実などを採食する。                  千葉県では房総半島の南部で確認されている。越冬期には各地の樹林で観察例があるが、個体数は少                  ない。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(12/14)

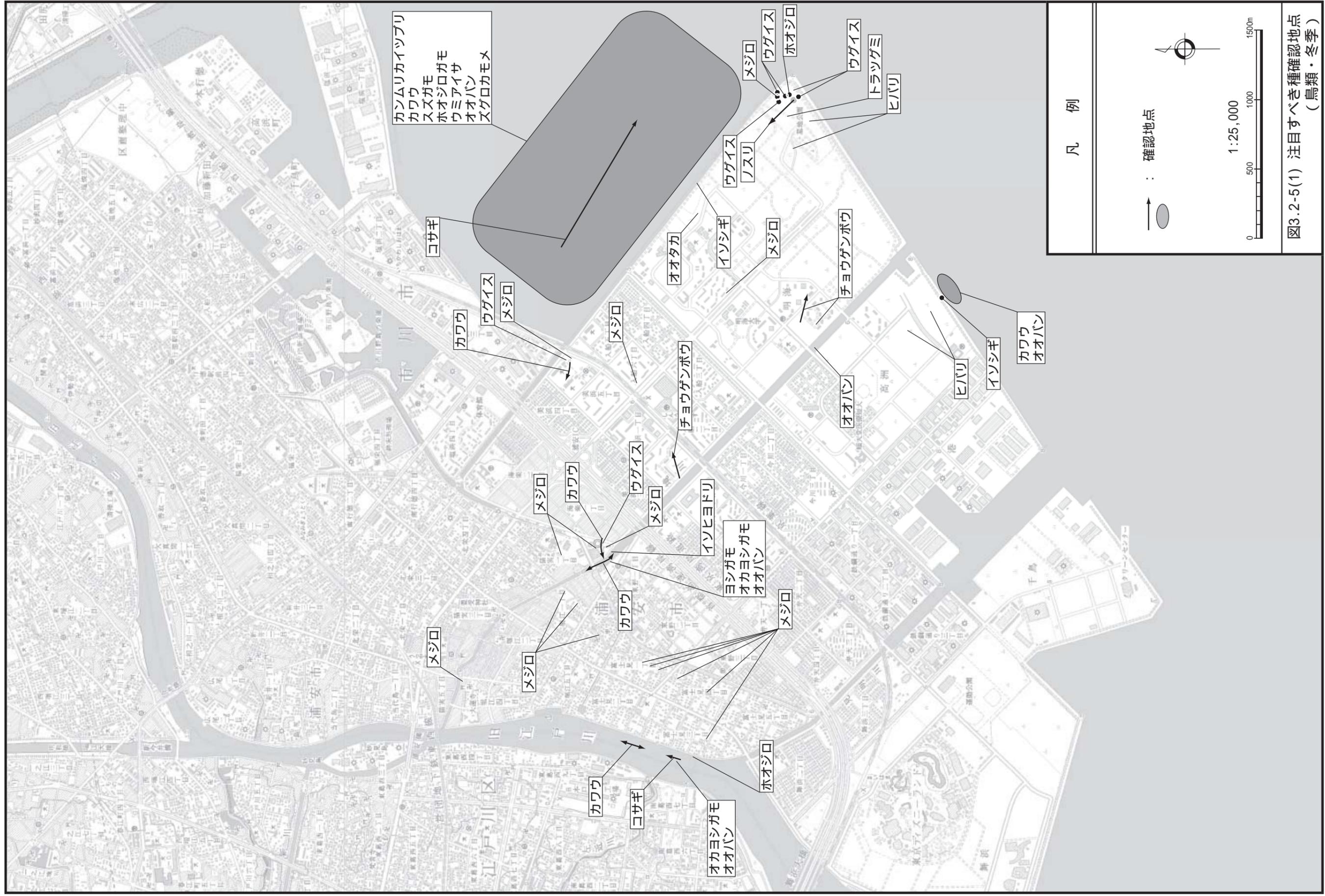
ウグイス	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                  確認時期:冬季、春季、秋季                  確認位置:M-2(市役所周辺)、N-2(若潮公園・交通公園)、                  N-3(美浜公園・美浜運動公園)、S-1(墓地公園)、                  旧江戸川                  写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>冬季に市役所周辺、美浜公園・美浜運動公園で1羽、墓地公園で5羽、春季に美浜公園・美浜運動公園で2羽、墓地公園で1羽、旧江戸川河川敷で1羽、秋季に墓地公園で1羽を確認した。                  本種は平地から亜高山のササ藪を伴う低木林、林縁などに生息し、越冬期には平地の藪の中で生活する。繁殖地は低山帯から標高 2000m程度の亜高山帯まで幅広いが、林床にササが密生していることが生息条件である。わが国では全国各地に広く分布し、越冬期は低地または暖地に移動する。                  千葉県では広く分布、繁殖する。冬季には個体数が増加し、公園の緑地や人家の庭でもみられる。</p>	
オオヨシキリ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                  確認時期:夏季                  確認位置:S-1(墓地公園)、旧江戸川、境川高洲橋、新町市街地                  撮影日:2006年6月22日</p>
<p>夏季に墓地公園で2~3羽、旧江戸川河川敷で5羽、境川の高洲橋付近で1羽、新町市街地で2羽を確認した。確認した個体はいずれも囀る個体であった。                  本種はわが国のヨシ原を代表する種で、各地のヨシ原で普通にみられる。平地に多いが、山地の湖岸でも繁殖する。                  千葉県では夏鳥として各地のヨシ原に渡来する。ヨシ原などの湿地に強く依存する種類であり、河川や湖沼畔の護岸などにより個体数の減少が危惧される。</p>	
セッカ	
	<p>ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物)                  確認時期:春季、夏季、秋季                  確認位置:S-1(墓地公園)、三番瀬、旧江戸川、新町市街地                  写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>春季に旧江戸川河川敷で1羽、夏季に墓地公園で1羽、新町市街地で6羽、秋季に三番瀬で2羽、新町市街地で2羽を確認した。                  本種は秋田県から沖縄まで分布するが、本州中南部に多い。低地から山地の草地を好み、海岸や河口部などのやや湿った草地に多い。昆虫やクモ類などを捕食する。                  千葉県では広く分布し、周年みられるが冬季の記録は少ない。耕作放棄地や造成地などで繁殖する。</p>	

表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(13/14)

<p>オオルリ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→B(重要保護生物)          確認時期:秋季          確認位置:N-3(美浜公園・美浜運動公園)          写真出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)</p>
<p>秋季に美浜公園・美浜運動公園で1羽を確認した。          南西諸島を除く北海道から九州までの全国各地に夏鳥として渡来する。低山地から亜高山地にかけての山地や丘陵地に生息し、とくに溪流沿いのよく茂った林に多い。枝に止まり空中を飛ぶチョウやガなどの昆虫を空中で捕食する。          千葉県では夏鳥として分布するが稀である。養老川源流部や天津小湊などで繁殖している。渡りの時期には、県内各地で少数が観察される。</p>	
<p>メジロ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)          確認時期:冬季、春季、夏季、秋季          確認位置:M-1(清瀧神社・大蓮時・宝城院)、M-2(忠霊塔公園)、          M-3(しおかぜ緑道)、N-1(中央公園)、          N-2(若潮公園・交通公園)、N-3(美浜公園・美浜運動公園)、          S-1(墓地公園)、S-2(高洲海浜公園)、          S-3(明海の丘公園)、三番瀬、旧江戸川、          境川今川橋・排水場、          元町、中町、新町市街地          撮影日:2006年3月4日</p>
<p>年間を通して市内の広範囲にわたり数羽を確認した。          本種は低地から低山帯のさまざまな樹林に生息し、昆虫やクモ類、果実を食べる。わが国では留鳥として全国に生息する。本州中部以北で繁殖するものは、越冬期は暖地に移動する。          千葉県では各地の樹林で繁殖し、ほとんどの地域では周年みられる。冬季には個体数が増加する。</p>	
<p>ホオジロ</p> 	<p>ランク:「千葉県 RL」→C(要保護生物)          確認時期:冬季、春季、秋季          確認位置:S-1(墓地公園)、旧江戸川、境川高洲橋、新町市街地          撮影日:2006年3月3日</p>
<p>冬季に墓地公園で5羽、旧江戸川で2羽、春季に旧江戸川で1羽、新町市街地、境川の高洲橋で2羽、秋季に墓地公園で1羽を確認した。          本種は低地から低山帯のさまざまな樹林の林縁や草地などに生息し、巣は地上や藪の小枝の叉につくる。おもに草本類の種子を採食する。わが国では種子島以北の全国に留鳥として繁殖し、越冬期は低地や暖地に移動する個体もいる。          千葉県では留鳥で各地に広く分布する。冬季には越冬個体が増え、個体数が増加する。農村や耕作地の宅地化、市街化により、生息適地は減少している。</p>	

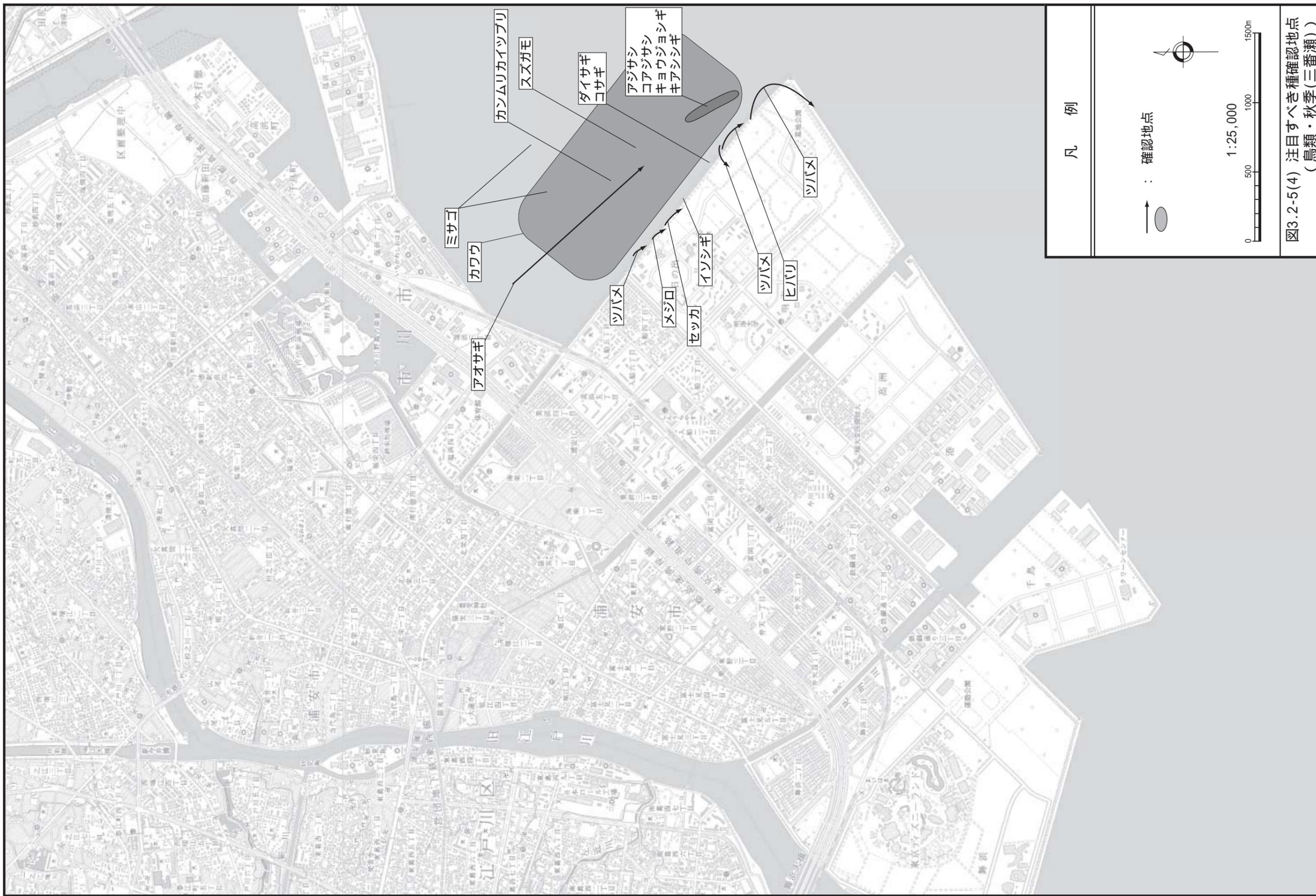
表 3.2-8 注目すべき種(鳥類)確認状況(14/14)

オオジュリン	
写真なし	ランク:「千葉県 RL」→D(一般保護生物) 確認時期:春季 確認位置:旧江戸川
春季に旧江戸川河川敷で2羽を確認した。 本種は北海道で夏鳥として繁殖し、近年、本州の東北地方でも繁殖が確認された。本州以南には冬鳥として渡来し、とくに関東地方以南に多い。繁殖地では水湿地のヨシ原から、その周辺の丈の低い草原に、越冬地では湖沼や河川の沿岸のヨシやマコモ草原に生息する。草地の地上や茎で、昆虫類や種子を食料とする。 千葉県では、東京湾周辺で冬鳥として普通に渡来する。	
カケス	
	ランク:「千葉県 RL」→C(保護生物) 確認時期:秋季 確認位置:N-2(若潮公園・交通公園)、S-3(明海の丘公園) 画像出典:千葉県の保護上重要な野生生物(千葉県, 2000)
秋季に若潮公園・交通公園、明海の丘公園で上空を飛翔する1羽を確認した。 本種は屋久島以北の北海道、本州、四国、九州に留鳥として分布、繁殖する。低地から低山帯のさまざまな樹林に生息し、雑食性が強く、秋にはどんぐりを地中に貯える習性を持つ。 千葉県では個体数が少ない。特に県北部では少なく、越冬期にのみ渡来する地域が多い。	









凡 例

→ : 確認地点



1:25,000



図3.2-5(4) 注目すべき種確認地点  
(鳥類・秋季(三番瀬))



凡 例

→ ○ : 確認地点

1:25,000

0 500 1000 1500m

図3.2-5(5) 注目すべき種確認地点  
(鳥類・秋季)

### 3.2.3.5. 各地区の鳥類相

各地区の生息環境区分別の確認種数を図 3.2-6 に示す。確認種数は元町で 43 種、中町で 33 種、新町で 52 種、三番瀬で 46 種となった。

確認種数が 52 種と最も多い新町は、埋め立てにより造成された地域であるが、水域には境川や高洲海浜公園 (S-2) でカモ類やサギ類のほか、三番瀬から飛来するカモメ類などの水鳥を確認した。また、陸域には墓地公園 (S-1) や市街地に点在する草地など、比較的まとまった緑地がみられ、このような環境に森林性や森林周辺性種性の種、草地性の種といった陸鳥が生息し、比較的多様な環境要素が確認種数に反映していると考えられる。

これに次ぐ 43 種を記録した元町では、旧江戸川やその河川敷で全体の約 7 割を確認した。また、最も少ない 33 種を記録した中町は、新町の三番瀬、元町の旧江戸川といった、まとまった水域環境がなく、水鳥の確認種数が少ないために全体の確認種数も少ない。しかし、陸鳥については、N-1 (中央公園)、N-2 (若潮公園・交通公園)、N-3 (美浜公園・美浜運動公園) といった比較的樹木の多い緑地が存在するため、他地域と比較して大きな差は認められなかった。

一方、三番瀬では水辺性種、水辺周辺性種を中心に 46 種を確認した。

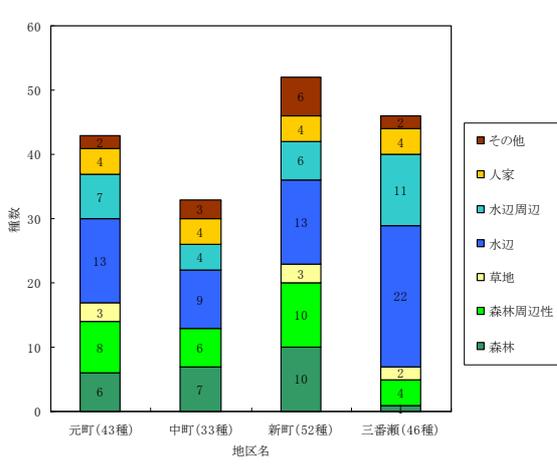


図 3.2-6 各地区の確認種数

### 各地区の鳥類相の概況

- ・ 浦安市では、新町、元町、中町の順に確認種数が多くなっています。三番瀬を合わせると、新町、三番瀬、元町、中町の順になります。
- ・ 新町は陸鳥が墓地公園、造成地の草地に生息し、水鳥は三番瀬から飛来します。
- ・ 元町は旧江戸川やその河川敷がおもな生息地です。
- ・ 中町は新町や元町に比べて鳥たちが好む環境が少ないため、確認種数が少ないですが、緑の多い公園では陸鳥が生息しています。

### 3.3. 爬虫類・両生類等調査

#### 3.3.1. 調査概要

調査期日・調査項目など調査の概要を表 3.3-1 に示す。

表 3.3-1 調査概要

調査時期		調査時間	調査項目	調査員
早春	2006年3月2日	6:30~14:30	両生類	1名
初夏	2006年6月22日	4:30~12:30	爬虫類	
秋	2006年9月11, 14日	18:00~20:15	コウモリ	

#### 3.3.2. 調査方法

表 3.3-2 及び図 3.3-1 に示す 9 箇所において、以下に示す調査を実施した。調査方法は概ね「平成 9 年度河川水辺の国勢調査マニュアル河川版(生物調査編)」に従った。

表 3.3-2 調査箇所一覧

区分	地区名	記号	地点名
陸域	元町	M-1	清瀧神社・大蓮寺・宝城院
		M-2	市役所周辺
		M-3	しおかぜ緑道
	中町	N-1	中央公園
		N-2	若潮公園・交通公園
		N-3	美浜公園・美浜運動公園
	新町	S-1	墓地公園
		S-2	高洲海浜公園
		S-3	明海の丘公園



図 3.3-1 調査箇所位置

### 3.3.2.1. 両生類・爬虫類調査

調査箇所全域を対象に任意調査を行い、目視及び痕跡などで確認した種の記録を行った。

### 3.3.2.2. 哺乳類(コウモリ)調査

調査対象地区の周辺を踏査または車で移動しながら、バットディテクター及び目視によりコウモリ類を確認した地点を記録した。



図 3.3-2 バットディテクター

これらの調査により確認した種のうち、注目すべき種については、その確認状況なども記録することとした。なお、注目すべき種とは、表 3.3-3 の①～④のいずれかに該当する種とした。

表 3.3-3 注目すべき種(両生類・爬虫類・哺乳類)選定基準

資料名
①文化財保護法(1950, 法律 214)に基づく特別天然記念物及び特別天然記念物
②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(法律第号) (環境省, 1992)に基づく国際希少野生動植物及び国内希少野生動植物
③改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—3 爬虫類・両生類 (環境省, 2000)掲載種 鳥類、爬虫類、両生類及びその他の無脊椎動物のレッドリストの見直しについて (環境省, 2006)掲載種
④④千葉県レッドリスト(動物編)<2006 改訂版>(千葉県, 2006)掲載種

### 3.3.3. 調査結果

#### 3.3.3.1. 両生類・爬虫類の生息状況

現地調査において、爬虫類は確認していない。浦安市は、爬虫類の生息環境となるような、耕作地や樹林などの環境に乏しく、市外周辺の樹林などからも遠く隔離されていることから、潜在的にも爬虫類相は極めて貧弱であることが推測される。調査においても、S-1(墓地公園)や、旧江戸川河川敷では、ニホントカゲやカナヘビなどが生息可能な草地在りわずかに存在していたが、生息を確認することはできなかった。なお、近隣の市川市では14種<sup>42</sup>、船橋市では11種<sup>43</sup>の爬虫類が確認されている。

両生類では、ニホンアカガエル1種を、S-1(墓地公園)とM-2(市役所周辺)の2箇所を確認した。しかし、浦安市では、水田耕作地帯や谷戸の湿地といった両生類の生息環境が全く存在しないため、爬虫類と同様で、潜在的な両生類相は極めて貧弱なものと考えられる。また、S-3(明海の丘公園)では水辺環境を創出したビオトープが整備されているが、このような生息適地においても、周辺の生息地から遠く隔離されているために、人為導入をしない限り、両生類の自然な定着は難しいものと考えられる。なお、近隣の市川市<sup>42</sup>、船橋市<sup>43</sup>からは、いずれも6種の両生類が確認されている。

#### 3.3.3.2. コウモリ類の生息状況

現地調査では、9つの調査箇所のうち、N-3(美浜公園・美浜運動公園)を除く8箇所においてコウモリ類の鳴き声及び飛翔する姿を目視により確認した。なお、N-3(美浜公園・美浜運動公園)では、調査箇所より100m程離れた学校敷地上空でコウモリ類の鳴き声を確認した。これらの確認位置を図3.3-3に示した。

今回の調査で確認されたコウモリ類は全て、バットディテクターによると45kHzの鳴き声を発する種であり、ヒナコウモリ科の一種と記録された。ヒナコウモリ科においては鳴き声のみによる種の同定は困難であるが、周辺環境や地域の生息種を考慮すると、アブラコウモリの可能性が高い。なお、近隣の市川市<sup>42</sup>、船橋市<sup>43</sup>においても、確認されているコウモリ類はいずれもアブラコウモリ1種のみである。

これらの確認記録は公園や墓地、遊歩道及び運河水路の上空など、比較的開けた空間で多く、音声の状況から昆虫類などを捕食しているものと判断され、これらの環境が採餌場として利用されている実態が明らかとなった。

コウモリ類が日中休息するねぐらなどの具体的な地点については判明しなかったが、周辺の住宅地、工場などの屋根裏や大きな高架の橋下の空間などであると推測される。

<sup>42</sup>市川市自然環境実態調査報告書 2003 第一分冊(市川市, 2004)

<sup>43</sup>ふなばし環境マップシステム(船橋市, 2002)



凡 例

： 確認地点  
（ヒナコウモリ科の一種）



図3.3-3 コウモリ類確認位置

### 3.3.3.3. 注目すべき種の生息状況

両生類で確認したニホンアカガエルは千葉県レッドリストに掲載されており、注目すべき種にあたる。表 3.1-8 にその確認状況を示す。

表 3.3-4 注目すべき種(両生類)確認状況

ニホンアカガエル	
	<p>ランク:「千葉県RL」→A(最重要保護生物)            確認時期:冬季、早春季、            確認位置:S-3(明海の丘公園)、M-2(市役所周辺)            撮影日:2006年1月31日(左上:S-3,死体)            2006年6月22日(右上:幼生、左下:幼体)</p>
<p>現地調査では、冬季及び早春季に S-1(墓地公園)の人工池で、初夏に M-2(市役所周辺)の公園内の水辺でそれぞれ確認している。冬季には成体の乾燥した死体を、早春季には卵塊を、初夏には幼生や幼体を確認した。            本種は平地から丘陵地の水田地帯を生息環境とし、産卵には日当たりのよい止水域が必要である。現況では県内に広く分布するが、圃場整備事業などの進行により、急速に個体数が減少しているとして、千葉県のレッドリストでは最重要保護生物に指定されている。</p>	

### 両生類・爬虫類・コウモリ類の生息状況

- ・ 浦安市では、ヘビやカメ、トカゲといった爬虫類がみつかりませんでした。
- ・ 千葉県で絶滅のおそれがあるといわれている、ニホンアカガエルが2箇所で見つかりました。
- ・ コウモリは、市内のいたるところで見ることができます。